

#### 14. 当院の周術期における口腔機能管理

歯科口腔外科

田中 瞳 北村 里織  
谷澤由紀子 谷 泰子  
衣川美沙子 中嶋 郁夢  
東谷 泰代 高木 雄基  
藤原 成祥

口腔ケアの重要性はすでに広く知られている。特にがん医療における口腔ケアの重要性は非常に高いと考えられている。2012年度に周術期口腔機能管理が保険導入された。周術期等口腔機能管理とは、がん治療の治療前から治療中、治療後に至るまで一貫して口腔ケアを行うことで、合併症の予防、軽減に寄与することを目的としている。さらに2014年度の診療報酬改訂ではその適応症例が拡大となった。当院でも当初から周術期等口腔機能管理に取り組み、多職種を巻き込みながら対応症例数を増やしてきた。また、地域完結の観点から、地域医療機関との連携を図り、適応症例を増やす努力をしているが、未だ全症例に対応できているわけではない。

この度は、周術期等口腔機能管理へのこれまでの取り組みを紹介させて頂き、理解頂くとともに、院内の多職種より多くの意見を頂き、改善に取り組みたいと考えている。

#### 15. ハイブリッド手術室での治療が有効であった前頭蓋底部硬膜動静脈瘻の1例

脳神経外科

大前 凌 新光阿以子  
高橋 和也 高野 昌平

##### 【はじめに】

硬膜動静脈瘻の多くは血管内治療にて完治が期待できる。ただし、前頭蓋底部硬膜動静脈瘻に対する塞栓には視力障害のリスクが伴うため、直達手術が推奨される。今回、前頭蓋底部硬膜動静脈瘻に対してハイブリッド手術室にて直達手術を施行した1例を経験したので報告する。

##### 【症例】

70代女性。突然の頭痛を主訴に救急搬送。外傷の既往はなかったが、頭部CTにて右急性硬膜下血腫を認めた。脳血管撮影検査にて右前頭蓋底部硬膜動静脈瘻が出血源と診断。後日、ハイブリッド手術室にて開頭による瘻孔結紮術を施行した。シャント部位をtemporary clipで遮断した後の術中血管撮影にて動静脈瘻、静脈瘤の消失を確認した後に凝固切断した。術後、神経学的異常所見の出現はなく、頭痛も軽減し、独歩退院となった。ハイブリッド手術室での直達手術は遮断部位が適正であることを血管撮影にて評価したうえで切離出来、有用であった。

#### 16. 人工股関節全置換術後に臼蓋スクリューが骨盤内に迷入した一例

整形外科

山下 勝成 阪上 彰彦

心臓血管外科

金光 仁志 毛利 亮

##### 【症例】

80代、女性。X-19年に前医で左変形性股関節症に対し左人工股関節全置換術を施行された。X年9月に誘因なく左鼠径部痛が出現し、前医を受診した。単純X線・CT検査で臼蓋スクリューの骨盤内への逸脱を認めたため当科紹介となった。起立などの動作時に左鼠径部痛を認めたが、独歩は可能であった。造影CT検査でスクリュー先端が左外腸骨動脈に接していることが判明した。心臓血管外科にコンサルトし、異物除去術を施行した。

##### 【手術所見】

心臓血管外科医師により左傍腹直筋アプローチで後腹膜腔に進入した。左外腸骨動脈にスクリュー先端が癒着していたため剥離し摘出した。

##### 【考察】

臼蓋スクリューの突出により骨盤内血管や腸管などを損傷するリスクがあるとされるが、スクリューが骨盤内に迷入したという報告は少な